

野洲市資料提供

提供年月日	平成30年12月25日
担当課	教育委員会 スポーツ施設管理室
担当者	水野
連絡先電話番号	077-587-3477

旧温水プール建物の除却について

平成2年完成の温水プールについて、開館以来25年が経過し、経年劣化が進んでいたことから、平成27年度から今後の方向性の検討を開始した。この時期に計画を進めていたクリーンセンター余熱利用施設にプール機能を設ける計画が進められており、温水プールの機能を移管し、当該施設を廃止する一方、サブアリーナとしての活用の可能性について検討してきた。

1. これまでの経過

- 平成 2年 8月 開館
- 平成19年11月 ボイラー緊急修繕（ボイラーの取替え）
- 平成26年12月 新野洲クリーンセンター余熱利用施設整備に関する基本方針を公表
 - ・老朽化した総合体育館温水プールの機能を移転
- 平成27年11月 「今後の総合体育館温水プール（検討）の方向について」を公表（資料1）
 - ・計画中のクリーンセンター余熱利用施設に機能移管し廃止
 - ・サブアリーナへの改修を検討
- 平成28年11月 天井部材の一部が落下
- 平成28年12月 温水プールを休館
 - ・温水プールの修理費用を試算し検討
 - ・利用可能期間と投資（約5,000万円）が見合わないと判断
- 平成29年 1月 「温水プールの今後について」を公表（資料2）
 - ・平成31年度廃止予定の計画を前倒しして温水プールを休止
 - ・サブアリーナ的な用途に施設を改修する構想を検討
- 平成29年 3月 余熱利用施設整備基本計画を公表
- 平成29年 8月 余熱利用施設整備運営方針を公表
- 平成30年 3月 温水プールを廃止（野洲市総合体育館条例の一部を改正する条例 議決平成30年3月23日）

今後の総合体育館温水プール（検討）の方向について

総合体育館温水プール（以下「温水プール」）は、平成 2 年に開館し、湖南地域唯一の公共温水プールとして、市内外からフリー遊泳、スイミング教室で利用いただいています。

温水プールは、開館から 26 年が経過し老朽化が目立ってきましたので、現時点が今後のプール事業を検討するべき時期と捉えて、施設の存続（長寿命化改修）、撤退（廃止）について検討しました。

（利用状況）

温水プールの平成 26 年度利用実績（延べ人数）は、フリー遊泳 77,804 人、スイミング教室約 5 万人で、合計 12 万 7 千人です。実利用者数はフリー遊泳 5,792 人、スイミング教室 1,294 人で、合計 7,086 人です。実利用者数のうち市内住民の方は、フリー遊泳 1,984 人（全体の 34%）、スイミング教室 843 人（全体の 65%）で、合計 2,827 人です。

（運営経費）

平成 26 年度の収入は、使用料収入 22,256,000 円、スポーツ振興事業（スイミング教室）収入 49,614,700 円、その他雑収入 1,612,592 円、合計 73,483,292 円です。

平成 26 年度収支では、プール運営経費で 87,616 千円（職員人件費を含む）の支出があり、14,133 千円の赤字です。

※運営経費には、当初の施設用地取得費・建設費、大規模修繕費は含まない。

今後の年間収支見込として、近隣市での温水プール建設の影響を平成 26 年度データを基に推計したところ、近江八幡市が計画している温水プール（平成 29 年 4 月完成予定）が稼動した場合、収入額は 68,907 千円と推計され、18,709 千円の赤字が予想されます。

更に守山市に温水プール（未定）が建設された場合は、収入額は 46,938 千円で、40,678 千円の赤字が見込まれます。

（維持する場合の施設改修）

施設・設備の状況は、経年劣化や耐用年数の超過により、トップライト（天窓）、吊り天井、幼児プールの外壁のブロックガラス、ろ過機、ボイラー、配管等の交換などの改修が数年以内に必要となります。

温水プール建設後 30 年（平成 31 年）を目処にフルリニューアルを実施することにより長寿命化を図った場合、最大で約 5 億円以上の費用が必要（補助金が期待できない）となります。

(まとめ)

- ①温水プールの運営は赤字であり、現状では市外の利用者が多いことで赤字幅が縮小されています。今後も市外の利用者に依存した運営は継続性の面から問題があり、周辺市で温水プール建設計画が実現されると大きな影響を受けます。
- ②施設を維持する場合の改修費用は予想額ですが大きな費用が必要となります。
- ③海洋センタープールも開館 33 年（昭和 57 年開館）を経過しており、老朽化による改修時期が近づいていますので、維持しようとするならば、ほぼ同時に 2 つのプールを改修する必要があります。
- ④余熱利用施設については、平成 26 年 12 月 18 日の議会全員協議会で温水プールの機能移転の想定とともに、近隣市の余熱利用等での類似施設による影響を検討すべきであることを報告しました。平成 27 年 2 月 20 日の第 3 回まちづくり井戸端座談会では近隣市での温水プール計画による影響とともに、市に温水プールが必要であるかどうかの判断が必要であることを説明し、この会議結果は 3 月 24 日の議会全員協議会に提出しています。
また平成 27 年 6 月 7 日のやすまる広場では、今後の方針案として余熱利用施設は健康増進用プールをメインとし、併せて温水プールの廃止、長寿命化、機能移転等の選択肢を含めて検討が必要であるとの考え方を示しました。
- ⑤新野洲クリーンセンター新設工事に伴い余熱利用の健康増進型施設を建設する計画が検討されていますので、温水プールの機能を移す可能性について関係課と調整します。

(教育委員会の考え方)

5 万人規模の野洲市にとって 2 つの（遊泳用）プールを今後も維持することは不効率と判断しますので、余熱利用の健康増進型施設に、温水プールの機能の一部を移管することの可能性を検討した上で、温水プールを廃止し、海洋センターでプール事業を集中する方向で検討します。

なお、温水プールは健康増進型施設の運用を開始するまで使用し、その後は、市スポーツ団体より活動（練習）場所の確保について要望が出ていますので、平成 36 年の国体に合わせて助成の活用を模索しサブアリーナへの改修を検討します。

この考え方について、現在、次期スポーツ推進計画策定の審議をいただいているスポーツ推進審議会委員の懇談会で意見を聴取する予定です。

温水プールの今後について

1. これまでの経過

野洲市総合体育館 温水プール（すいむ^{エイト} 8）では、昨年 11 月に 2 度にわたり天井部材の一部が落下する事故が発生しました。利用者の安全を確保する必要があるため、12 月 1 日から臨時休館いたしました。天井劣化度調査を専門家（建築士）に委託し、12 月 9 日に実地の調査、同 27 日に結果の報告を受けました。スイミング教室受講者全員に電話連絡をして 12 月 20 日には受講料還付の振込手続をいたしました。

2. 天井劣化度調査結果の概要

○ 25m プール

- ・高窓付近（中央部） 天井下地が錆で劣化→部材の落下の危険性
- ・周辺部（平天井） 天井下地の一部に錆が見られる
- ・耐震性 特定天井に該当→現行の耐震基準を満たさない

○ 幼児プール

- ・天井下地の錆で強度が不足し一部落下→すべて改修が必要

○ 改修方法の比較

	A 案	B 案
工事概要	全面ネット	天井撤去
工期	7 か月以上	8 か月以上
耐震性	安全性のみ確保	法的基準に適合
概算工費（千円）	37,945	45,515
用途変更対応性	ネットの撤去も必要	照明の改修のみ
（幼児プール）	（復旧）	（復旧）

以上の結果から、老朽化が天井部材の一部落下として突然現れましたが、安全を最優先に総合的な判断が必要となりました。

3. 項目ごとの検討

○ 利用実態

- ・温水プールの平成 26 年度利用実績（延べ人数）は、フリー遊泳 77,804 人、スイミング教室約 5 万人、合計 12 万 7 千人で、実利用者数はフリー遊泳 5,792 人、スイミング教室 1,294 人、合計 7,086 人です。実利用者数のうち市内住民の方は、フリー遊泳 1,984 人、スイミング教室 843 人、合計 2,827 人で、利用割合は、市内 40%、市外 60%となっています。

○ 安全性の確保

- ・法的な耐震性を満たすためには B 案または基準に適合した天井に全面改修する必要があります。

○ 改修後の運営可能期間

- ・改修期間は設計・工事に 7 か月以上の期間を要します。平成 31 年度末で閉鎖する計

画なので、改修後の残りの期間が実質2年強しかありません。

○他の温水プールの状況

- ・近江八幡市の温水プール（平成29年度開業予定）
- ・新クリーンセンター余熱利用施設→整備基本計画策定中（平成31年度中開業予定）

○管理運營業務委託

- ・5年間の長期契約のうち平成31年度末まで残り3年間あります。
残りの契約金額 1億4160万円強

○収支の見通しについて

平成29年度から31年度までの3年間（うち2年間営業として）概算

・収入

費目	金額（千円）
使用料・雑入 ※68,000×2年	136,000

※平均約73,000千円の収入がありますが近江八幡市営プール開業に伴い
利用者の約7%~10%の減を勘案した額

・支出

費目	金額（千円）
改修工事費用	45,520
人件費 12,000×3年	36,000
管理運営費 33,000×1年 60,700×2年	154,400
事業費 1,300×2年	2,600
計	238,520

4. 今後の方向性

- ・安全性を最優先にして温水プールの再開をしようとする多額の経費が見込まれ、効果的な投資にならない可能性が考えられ、平成31年度で温水プールを閉鎖する計画を3年前倒しする方向で検討します。
- ・サブアーリーナ的な用途に施設を改修する構想を加速化して、施設の有効活用を図り、スポーツの一層の振興を進めます。中主B&G海洋センタープールの開設期間の延長など既存プール施設の有効活用も検討いたします。
- ・基本契約書5条、仕様書7条の解約条項により解約については、問題はありません。

5. 当面の対応

○定期券・回数券の取り扱い

- ・定期券は所持者全員に通知し、できる限り平成28年度内に払い戻し（還付）します。
- ・回数券は一定期間を設け払い戻し（還付）します。周知については、HP・広報のほかチラシの発行も検討します。